

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1491200026	事業の開始年月日	平成22年10月1日	
		指定年月日	平成22年10月1日	
法人名	株式会社 保健科学研究所			
事業所名	小規模多機能型事業所 寒川きんもくせい			
所在地	(253-0111) 神奈川県高座郡寒川町一之宮9-25-47			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	25 名	
		通い定員	15 名	
		宿泊定員	6 名	
		定員計	名	
		ユニット数	ユニット	
自己評価作成日	平成24年9月18日	評価結果 市町村受理日	平成24年11月30日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営推進会議で事業所の運営報告や委員の意見を聴く機会を設けている。利用者のご自宅に積極的に訪問して、本人や家族の意向を確認している。町内会の行事に参加させて頂く等、近隣との交流も図っている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成24年10月2日	評価機関 評価決定日	平成24年11月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】
 ◇毎年の目標設定と研修後の効果測定
 法人全体で毎年目標を設定している。今年度の目標は、①FAXの誤送信を防ぐ、②個人情報保護に関する教育を徹底する、としている。
 また、年数回の(日程は適宜)研修では、終了後効果測定を行っている。これは職員の振り返りや気づき、スキル向上につながっている。

【事業所が工夫している点】
 ◇「今日は何の日」の脳トレーニング
 レクリエーションの一環として毎朝、脳トレーニングを兼ねた「今日は何の日？」を行っている。「今日と同じ日、過去にどういうことがあったのか」について職員がパソコンや図書館で検索し、カラーコピーしたものを皆で声を出して読み合わせている。結果、過去の出来事や話題から、昔を思い出して話が活発になっている。事業所としては、利用者の脳の活性化を目指している。
 ◇「東海道五十三次宿場めぐり」による室内歩行訓練
 雨の日など室内をただ歩いていてもつまらないので、楽しみながら歩行訓練ができるように職員が考案した。壁には利用者と職員手作りの各宿場の浮世絵を加えた「宿場マップ」を貼り、宿場ごとに利用者が短冊に宿場を説明するコメントを書いている。廊下を往復するごとに個々の宿場カードにシールを貼っていくが、利用者が頑張り過ぎて職員が時々ブレーキを掛けなくてはならぬほど効果がでている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	寒川きんもくせい
ユニット名	

V アウトカム項目		
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
		2, 利用者の2/3くらいの
		3. 利用者の1/3くらいの
		4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
		2, 数日に1回程度ある
		3. たまにある
		4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
		2, 家族の2/3くらいと
		3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
		2, 数日に1回程度ある
		3. たまに
		4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
		2, 少しずつ増えている
		3. あまり増えていない
		4. 全くいない
66 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
		2, 職員の2/3くらいが
		3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
		2, 家族等の2/3くらいが
		3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない

小規模多機能型事業所 寒川きんもくせい

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関には理念を掲示し、すぐ目に入るようにしている。朝礼時などに理念についてを伝える時間を設けている。	・朝夕のミーティングでは施設の利用者本位、地域密着の理念を基に介護の反省を行っている。職員と施設長は年に複数回の個人面談の機会に理念も含め話し合っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事等には参加させて頂いているが、依然として町内会には加入できていない。	・運営推進会議の後押しで地元自治会加入に向け行動している。地元のお祭りへの参加はもとより、清掃週間などでは施設の周りを中心に、ご近所と協力作業を行っている。	・自治会への加入を進めていますが、実現するようさらなる努力を期待いたします。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で家族に認知症についてをお伝えしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者に対して近況報告や行事企画に対して意見を頂き、参考にしてしている。	・民生委員、地域福祉関係者、地域包括、町役場職員、利用者家族、職員により2か月毎に開催される運営推進会議では、自治会への早期加入や認知症研修会の開催などが提案されている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	利用者の紹介を受けたり、担当している利用者について相談をさせて頂いている。	・当小規模多機能施設は地元寒川町で一つということで、役場とは親密な関係にあり、介護保険法解釈など、利用希望者との質問応答などでは寒川町と連携し対処している。	

小規模多機能型事業所 寒川きんもくせい

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ間で身体拘束の確認をし、玄関の施錠も行わない事を徹底している。	・神奈川県“高齢者虐待防止の手引き”をマニュアルとして、職員に周知している。年間研修の中で、施設長が講師となる「身体拘束」をテーマとして盛り込んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても、内部研修等でスタッフに周知徹底している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修等で勉強する機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は読み合わせを行い、納得してから捺印をして頂く様にしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営会議や訪問した際に意見等を頂く様にしている。	・ケアマネージャーはケアプラン作成のため、月1回以上利用者宅を訪問し、利用者本人、家族から介護に関する要望を聴き、ケアプランに活かし、内容を職員に周知している。	

小規模多機能型事業所 寒川きんもくせい

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定期的に職員会議を開催し、職員の意見を聞く様になっています。	・定例会議や日々のミーティングなどで活発な職員意見が出され、開設2年以内に部屋標識の色分け、リクリエーション種類、プロ調理士の導入など職員提案で実現している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	環境設備が整っているとは言えないが、職場の雰囲気等良くしようと努力している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業部的には、2カ月に1回の定期的な内部研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	介護支援専門員部会に参加し、他事業所や施設の方々と情報交換や意見を交わす機会を得ている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約までに数回施設をご覧になるなど、関係づくりに努めている。		

小規模多機能型事業所 寒川きんもくせい

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とも同じで、契約までに見学に来られたり、話し合いを持ったり関係を深めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在どのような状況かを把握し、本人、家族の意向を含めサービス利用を検討する。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事はやって頂きお手伝いをお願いするなど、介護される側に一方的に置かないよう気をつける。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の介護について、家族と協力しながら支え合っていく。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今迄とおり、顔なじみや思い出の場所などは大切にしよう支援をしていく。	・利用者、家族の友人付き合いに事業所も協力し、近所で不要になった季節の飾り人形や品物を利用者ともども引き受け、飾り場の提供などを行い、近所の人共々の来所の機会を増やしている。	

小規模多機能型事業所 寒川きんもくせい

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、レクや会話等で利用者同士の関わりが持てるよう支援する。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	隣のグループホームに移動された利用者については、レクの時間に行き来したりして、交流を図る。		
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人に暮らし方の希望を確認するか、無理な場合は家族に確認する。	・利用者の思いの把握には介護経験豊富な職員を中心に傾聴、態度・表情観察を主としたチーム介護を心掛けており、得た情報は連絡ノートなどで全職員で共有し介護に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前の生活歴を各自確認するか、お話しの中で確認する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家族との連絡帳や面談等の情報から把握する。		

小規模多機能型事業所 寒川きんもくせい

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランに沿った課題のクリアと、担当者会議での新たな課題の検討などチームとして考えるようにしている。	・3か月、6か月毎にケアプランの見直しを行うが、緊急にプラン変更の必要性が生じた場合は、ケアマネージャーを中心に臨時カンファレンスを招集し、関係職員全員で協議し対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の流れや出来事を介護記録に記入し、職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域資源も視野に入れて検討するように心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	独居の利用者については、包括に相談したり、ご近所に声掛けして頂くなど対応するようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関とは別に今迄のかかりつけ医は大事にしている。	・利用者のかかりつけ医を尊重し、必要な場合には通院支援も行っている。緊急対応などの観点から家族からの要望で施設の協力医療機関を紹介するケースもある。	

小規模多機能型事業所 寒川きんもくせい

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が職員や家族の医療関係の相談や症状説明を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	現在までの長期入院者はいない。短期間の入院者は家族と連絡をとることで、退院後の利用再開に繋がる		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用の期間の中で、ご本人の状態の変化等があったらご家族と相談して、早めに対応するようにしている。	・まだ法人のターミナルケアに対する指針が定まっておらず、対応体制はできていない。今後の重要課題として、現在組織を上げ研究中である。	・終末ケアに関しては、法人の基本方針を一日も早く確立されることを望みます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所にはAEDを完備し、使用方法の講習会を行うなど急変時にそなえている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防訓練を行っている。地域との協力体制は今後の課題である。	・地元消防署の指導下、利用者、職員、消防員で年2回の避難訓練を実施している。災害備蓄については水、食料など3日分を用意し、さらに災害対応の毛布も備蓄している。	・短期入所者がいることが前提になりますので、夜間を想定した避難訓練の実施も期待します。

小規模多機能型事業所 寒川きんもくせい

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であるという認識を持ち、丁寧な言葉づかいを心がけるようにする。	・職員は入社時に個人情報保護に関する誓約書を提出している。人生の先輩として尊敬の念、言葉遣いなどに留意し、2か月ごとの研修時においても共通認識として周知されている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	家庭で過ごされている習慣を尊重し、可能な限り施設でも対応している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人や家族の意向を汲み希望に沿った支援を心がけている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装に関してはあまり制限を設けておらず、通いの中で、おしゃれを楽しんで頂くようにしている。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	事前にご本人の嗜好を確認しているし、食事の形態や方法は意向を尊重し、片付け等もお願いしている。	・食事は専任の調理師2名が交替で担当している。 ・業者調達の食材、メニューの中から、調理師が利用者の意向に沿った料理を作っている。利用者も下膳等できることを手伝っている。		

小規模多機能型事業所 寒川きんもくせい

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や水分のチェック表を作成し、栄養面もバランスのとれた料理にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後やおやつの後、持参して頂いた歯磨きセットでスタッフの介助や見守りの中、行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表で回数や有無を確認し、声掛け等をしてトイレでの排泄を行っている。	・現在、布パンの人が大半で、全員トイレ使用者である。夏場はリハパンの蒸れ防止のため、布パンに替え、さりげない声かけや見守りをし、改善された事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や適度な運動を毎日取り入れている。看護師より家族に下剤の調整指導を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的には、ご本人の意向に沿った入浴回数にしている。	・毎日の入浴は可能だが、拒否する利用者には無理強いせず、本人、家族の意志を尊重し対応している。広く設備の整った機械浴室は、好んで浴槽だけ利用する自立の人もいる。	

小規模多機能型事業所 寒川きんもくせい

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝を促している。利用者によって夜間トイレに近い部屋にしたり、考慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師の管理のもと名称、成分、副作用等を各スタッフ確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々、各利用者得意分野のお手伝いを頼んだり、毎月お誕生会や行事を企画して楽しんで頂く様にしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設周りをみんなで散歩したり、自動車を出掛けたり外気浴に触れるようにしている。	・日常的な散歩は、事業所周辺の畑や田んぼの自然な風景に触れ、時候のいいときには、毎週、寒川中央公園や茅ヶ崎の里山にドライブに行っている。お花見時にはお弁当持参で楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設に現金を持参して頂くのは、原則禁止にしている。		

小規模多機能型事業所 寒川きんもくせい

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、事務所の電話を使用して頂くことも可能である。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各箇所とも、日々清掃し、利用者にとっての不快感をなくすよう清潔感を保っている。	・居間の一面が、ガラス戸で採光が良く清潔感がある。 ・毎週テーブルやイスなどの模様替えをし、指定席を作らないことと、また、視点が変わることで、変化を持たせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの配置や座席は日々替えたりして環境の変化も考えている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各利用者様特定の部屋は設けてはいないが、使い慣れた物や好みのもで、危険性がないものは便宜を図っている。	・現在居室には週末のみ2名が利用している。短期の宿泊であるため、持ち込みは使い慣れた枕や時計など簡易なものとし、寝巻きと着替えがあればいいように、部屋は完備されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホワイトボードに昼食のメニューを記入したり、各行事の写真を壁に張ったり、「わかること」に力を入れている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 寒川きんもくせい

作成日 平成24年11月19日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	2	開所以来自治会に加入できず、ゴミ捨て等制限がある。	地域行事には参加できる関係になって来たので、早期の加入を目指したい。	町内会長だけでなく、地域行事や地域活動に参加して、多方面からお願いする。	1年
2	35	地域住民が参加しての夜間を想定した避難訓練が行われていない。	自治会と併せて、地域の防災部会とも連絡を取り、将来的に消防訓練を行えるようにする。	消防署や町役場とも実施に向けて連携をとるようにする。	1年
3	33	ターミナルケアに対する指針が定まっていない。	終末期の対応を、重要課題として研究する。	法人が基本方針を早く確立し、現場でも対応できるように努力する。	1年
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。